

# 4

月号

## ひだまり

わかくさこども園



2022.3.17



期待をふくらませて

(2022.3.10)

まだ何も建っていなかった時から、少しずつ園舎の完成を見守っていた子どもたち。

これから毎日過ごす新園舎を一目見ようと、年少の子どもたちがお散歩に出かけた。中には入れなかったけれど、外から見ているだけで、期待はふくらんでいく。

「おへやはなんこあるかな?」「かいだんはあるかな?」「おといれはどこかな?」

4月からはいよいよ、ふじぐみさん。

まずは、園内探検から始まりそうです。



### 4月の予定

1日(金) 保育園入園式

12日(火) 幼稚園入園式

13日(水) 始業の日

21日(木) 避難訓練

【幼稚園午前保育】13日～18日

# なんでもない日の、子どもたちのこと

わかくさの今とこれから。子どもたちのことを思いつくまに。

園長 習田 和正



## 別れの春 出会いの春

若草幼稚園の園庭には、梅の木の近くに河津桜が植えてあります。白梅が咲くと、子どもたちは一見同じように見える、もう一方の木のつぼみがまだ咲いていないことに気付きます。「こっちの木は桜の仲間。ほら、つぼみがピンク色だね」。先生の言葉で初めて、子どもたちは二つの木が違うことを知ります。年長さんにもなると、それを先生のように上手に下の子に教える子どもがたくさんいます。そんな毎年の光景も、もうすぐ見られなくなると思うと、少し寂しい気持ちになります。

はじめまして。4月から新しく園長になります、習田和正です。これまで、都内の認定こども園で園運営の仕事をしていました。もうすでに出会っているたくさん子どもたち、そして保護者のみなさんとの新たな出会いに、今からワクワクしています。至らない点もあるかと思いますが、これからどうぞ、よろしく願います。

## なんでもない日の、子どもたちのこと

毎朝だいたい同じ時間に、園庭の砂場で砂山を作っている男の子がいます。まだ、園庭に子どもが多くいない時間、一人で黙々

と砂を積み上げています。園庭に友だちが増えてくると、砂場で他の遊びをしたい子も出てきて、せっかく作った砂山は壊れてしまうのですが、翌朝砂場に行くと、また同じように砂を積み上げているのです。

その根気強さに感心しながら、その子のやろうとしていることをよく見てみると、どうやら、積み上げた砂山を使ってやりたいことが、その日によって違うようです。

「トンネルを掘る」

「反対側からも掘って、開通させる」

「くねくねした山道をつくる」

「温泉をつくる」

砂山がうまく作れる時ばかりではないし、誰かに言われたわけでもないけれど、自分でテーマを決め、試行錯誤を繰り返す。実は、そんな子どもの姿は、園のあちこちにあります。この「探究心」こそが、子どもの持つ力であり、可能性だと思います。同時に、私たち大人がつい素通りしがちな日常も、子どもたちにとってはたくさんの発見や気づきがある、特別な一日一日であることを、改めて感じさせられます。

なんでもない、日々の子どもの姿を丁寧に見ていくこと。そして、一人ひとりの子どものやりたい思いに共感し、その思いがどうすれば叶えられるのかを、一緒に



なつて考へていくこと。それが、これからわかくさが目指していきたい「ありのまま」の保育の、大事な視点になつていきそうです。

## 期待をふくらませて

いよいよ4月1日から、新しい園舎での生活がスタートします。長い時間をかけて計画した、たくさんの人の思いが詰まった園舎です。子どものことを真ん中に置いて建てられた園舎ですが、子どもたちの活動ややりたいことが方向づけられてしまうようなつくりにはなつていません。園の中身を作り、育てていくのはあくまで子どもたち。まだ真っ白な園舎を、これから子どもたちがどんどん自分たちの色に染めていくことでしょう（今月から園舎紹介コラムも始めますので、是非そちらもご覧ください）。

私たち職員一同も、みなさんをしっかりお迎えできるように、できる限りの準備を進めています。4月、期待を胸一杯にふくらませた子どもたちと、元気に会えることを楽しみにしています。

新年度も1年間、どうぞよろしくお願ひします。



ひなまつりの日の一幕。満開の白梅の下、集中して、たくさんの花びらを拾う二人の女の子がいました。



「みてみて。しろいはなのなかに、ぴんくがある。ちょっとだけおれんじも」



## 連載コラム・こども園たんけんたい



### 第1回「木の呼吸のように」

園舎は子どもたちを守り、育てる場所。あたたかみがあり、くつろげる“第2の家”でありたいと考えたときに、木造平家建ての設計に至りました。

園内の随所には木がふんだんに使われていますが、中でも、1日のうちで子どもたちが触れることが多いのが床です。床には抗菌・調湿作用が高いといわれている檜を使用しており、表面は保護加工をしています（水拭き等も問題なくできます）。冬は暖かく、夏はさらっとしているのが特徴で、木が本来持つ質感を、直に感じながら過ごすことができます。

感性豊かな子ども時代にこそ、本物に触れること。その体験は、子どもたちの可能性を広げることにつながるかもしれません。この園舎で過ごす子どもたちが、木の呼吸のように、焦らずゆっくりと大きくなってくれることを願っています。



※「連載コラム・こども園たんけんたい」では、毎月新しい園舎の紹介をしてきます。お楽しみに！

わかかさこども園

wakakusa kodomoen